

日中関係史・シンポジウム報告「中国人留学生が直面した諸問題について」(2018年3月)

## 中国大陸の留学関連博物館・記念館の現状と今後 A Study on the Relevant Museums, Cultural Exhibitions in China

苗 丹 国  
(王 雪 萍 訳)

### 英文概要

There are numerous exhibitions in Mainland China that celebrate the fruits of several centuries of Chinese studies abroad. These cover the historical changes of study abroad over that period, and are rooted in the globalization of education. They are symbols of the successive accumulation of history, cultural and academic progress, as well as the symbolism of private exchange, and are based on the history and ideals of the development of Chinese study abroad projects. These exhibitions are future oriented and have important significance in promoting overseas exchange, while continuing the spirit of study abroad by Chinese scholars. By fully investigating the 30-year history of these exhibits, the centuries of accomplishments in Chinese overseas studies become apparent. At the same time, these investigations reveal various forms on the content side, from new possibilities in public relations and research, to also potentials for various reforms, innovation, development and challenges, such as "integrity, fusion, improvement, and shared use."

キーワード：中国内地、海外留学、博物館、記念館、文物展、成果展

Keyword : Mainland China, overseas study, Museums, Cultural Exhibitions, Achievement Exhibitions

本稿は2018年3月3日に神奈川大学横浜キャンパスで開催された第58回「中国人留学生史研究会」拡大例会：テーマ「中国人留学生が直面した諸問題について」にて苗丹国氏が行った研究報告「中国人海外留学の基本特徴と『留学博物館』の建設計画について」及びその後提出した研究論文を修正・加筆し、さらに日本語に翻訳したものである。

現代中国の留学博物館に関する調査は、これまで十分に行われなかった。本稿は苗氏が数年間かけて、中国国内外の留学に関する博物館、記念館、文物展、成果展などを訪問し、見学・現地調査を行った結果をまとめたものである。先行研究が皆無のなか、同氏の調査結果を日本に紹介することが重要だと考え、本稿の翻訳を決定した。

### はじめに

本稿は、中国の関係機関が設立・開催した中国人の海外留学に関連する博物館、記念館、文物展および成果展に関する調査等を踏まえ、各種展示会の類型化および基本的なモデルの提示を試みものである。筆者は、本稿を準備するに当たり北京、保定、上海、珠海などの博物館の現地調査を行ったが、これら現存する中国大陸の留学関連の展示館は概ね10種類に分けられ、その中でも特に、建設済あるいは建設中の博物館、記念館および文物展が特に重要な類型と判断できる。また、6つの側面から見た主な特徴は下記の通りである。

社会的背景から見れば、留学そのものおよび関連研究が深まるにつれて展示館を設置する動きは盛り上がり上がっていった。経済的背景から見ると、国家や社会の経済力が向上し、文化事業に対する投資が増加するに伴い、より活発な博物館の設置構想が現れるようになった。地域的背景から見ると、留学生博物館関連施設の設置は、黒龍江省から北京、上海、保定、広東にいたるまでバランスの取れた地域構成になっているが、これは関連機関あるいは組織が事前に全体的な配置や設計を行ったものではなく、自然に形成されたものである。建設資金の拠出の面から見ると、6つの展示館で5種類のルートが用いられた。内訳は、国家財政が投入されたのが2か所、省レベルの地方財政が1か所、市レベルの地方財政が1か所、個人投資が1か所、大手・中堅企業の資金が投入されたのが1か所となっている。

中国人の海外留学に関連する最初の記念館が建設されてから35年が経過した今、「珠海中国留学博物館」の建設が進められているが、その設計の理念、準備状況、政府と研究機関、そして、民間の企業が協力しているところから、目標通りに進めば中国で最大かつ最高レベルの中国人海外留学史関連の博物館になる。本稿を通して、中国大陸に設立されている中国人の海外留学に関連する博物館、記念館などの現状がより多くの人々に理解されることを期待したい。

## 一. 中国人の留学史博物館、記念館

すでに建設されている中国人の海外留学に関連する博物館、記念館の代表例として、下記の3館が挙げられる。

### (1) 保定留法勤工儉学運動記念館

「保定留法勤工儉学運動記念館」は、中国人のフランス留学（勤工儉学運動）を記念する目的で1983年に河北省保定市の育徳中学校の跡地に建設された公立記念館である。同記念館が設置された育徳中学校跡は、1993年7月に河北省政府によって「河北省文物保護単位」として指定された。この「保定留法勤工儉学運動記念館」は1994年9月には河北省政府によって「河北省愛国主義教育基地」として指定

され、2017年には国家発展改革委員会によって「全国紅色旅遊經典景区名地」（全国の共産主義関連の観光地推薦リスト）にも登録されている。

同記念館の建設の準備は、1978年、河北省博物館と保定地区文化局、そして、高陽県文教局の取り組みから始まった。戦前のフランス留学経験者である李維漢氏、何長工氏などの協力を得て、「留法勤工儉学運動」に関連する史料の収集、整理業務が始まり、中国全土の100名以上のフランス留学生、労働者、関係者への調査が行われ、大量の写真、関連史資料の実物を収集した成果として、1981年5月に高陽県で第一回「留法勤工儉学運動略史展覧会」が開催された。その後、中国革命博物館、河北省博物館、そして、国家文物局などの監修と、フランス留学の経験のある老幹部の同意を経て、1981年8月には北京でも展覧会が開催された。この展示会は、当時のフランス留学（勤工儉学運動）が活発であった湖南、四川、広東などでも巡回展示された。

こうした実績を踏まえ、1983年2月に河北省保定市金台駅街の育徳中学校の跡地に「留法勤工儉学運動記念館」が建てられた。この記念館の敷地面積は2400平方メートルあまり、建



図1 保定留法勤工儉学運動記念館正門

出典：「組図：河北保定留法勤工儉学運動記念館」搜狐新聞頻道  
<http://news.sohu.com/21/50/news213595021.shtml> 2018年12月4日アクセス。

築面積は 870 平方メートル、建物は主として清朝末期の典型的なレンガと木造混合造りの四合院で、内部には展示ホール、展示室、幼雲堂、校長室などの部屋がある。

2001 年 7 月、中共党史学会、中共河北省委宣传部、中共河北省委党史研究室および中共保定市委は共同で「留法勤工儉学運動および二十世紀の中国」学術シンポジウムを開催した。その開催場所となったのが、河北省保定市であった。シンポジウムでは、「留法勤工儉学運動および二十世紀の中国」をテーマに、40 本あまりの論文が提出され、中国各地から 30 名近い専門家が集まった<sup>(1)</sup>。

「留法勤工儉学運動」のもう一つの関連施設としては、北京市丰台区長辛店の第一中学校舎内にある「中華民国初年留法勤工儉学予備班教室」である。この施設は、フランス式の二階建ての建物に建築面積は 251 平方メートルの広さがあり、2001 年 6 月に「留法勤工儉学史料展」が開催され、2013 年には「全国重点文物保護機関」として認定された。また、フランス留学のための語学教育を施した重慶の予備学校が、重慶市第二十九中学校舎に位置し、「重慶予備学校遺跡」として知られている<sup>(2)</sup>。

## (2) 中国留学生博物館

上海市の松江區茸梅路 1177 弄 7 号に位置した中国留学生博物館は 2004 年 9 月 28 日に設立された民間の博物館で、自らを「留学生の家、シンクタンク、書庫、サロン、コンサルティングおよび育成機関」と標榜している。敷地面積 1000 平方メートルを超える同博物館の創設者である李克欣博士（日本への留学経験者）は、この施設の設立の意味を次のように述べている。

「中国人の海外留学という文化を保存し、展示する殿堂であり、留学生関連のサービスを行うプラットフォームでもある。開館以降、中華の民族精神の発揚、留学の文化的記憶を保存し、留学生が知識を求め、国に尽くすという要求に奉仕することを己の務めとし、留学生の文化センター、留学生の活動センターを目指し、10 年以上、活動を継続している」。

この中国留学生博物館は民間の施設ではあるが、留学関連の常設展示館を備えており、活発な活動を展開している。例えば、常設の展示物は「留根铸魂」（根を残し精神を築く）をテーマとし、著名な留学生を点として、留学文化の発展史を線として位置づけ、中国人の海外留学生が中国近現代史の発展過程において果たした役割を紹介している。また、2017 年 5 月には、約 1 万名近い留学生から寄贈された史資料や記念品を整理し、『中国留学生在上海』という書籍を出版している。

中国人の海外留学と中国の近代史に関する専門的な展示を行い、留学の精神を紹介していることがこの博物館の特色の一つである。「祖国の記憶」と題した特別展は、海外留学組の人々が帰国後、中国近代の政治、経済、文化、科学、芸術、医学、健康、教育、環境など各分野において活発な社会貢献を行ったことを示す企画であった。また、2015 年 12 月には、「上海留



図 2 中国留学生博物館入口

出典：中国留学生博物館公式サイト

<http://www.fecm.cn/index.html> 2018 年 12 月 5 日アクセス。

学生フォーラムと留学生の起業家精神に焦点を当てて」と題した特別展を開催するとともに、中国の都市開発分野の専門家や学者、企業家、政府職員や留学生の代表など120人以上が参加するシンポジウムをも開いている。著名研究者である銭文忠氏は、この中国留学生博物館はただ「博物館」と単純に呼ぶことはできず、「博人館」と呼ぶべきだと述べた。その意味は、一般的な博物館と異なり、古代遺産の価値の高い展示品は所蔵されていないものの、留学生の人文精神を示したものを高く評価すべきである、というのがその理由である。「中国留学生博物館」は、2016年12月に「致公党伝統教育基地」に選定された<sup>(3)</sup>。

### (3) 黒河旅俄華僑記念館

「黒河旅俄華僑記念館」は2007年9月22日、黒龍江省の黒河市愛輝区王肅街72号に設立され、在ロシア華僑およびソ連・ロシアへの留学生からみた近代中露（ソ連）関係史を主な内容とする公立の展示館である。黒龍江畔の築百年あまりの二階建てヨーロッパ式建築物の中に設置され、その敷地面積は1600平方メートル、建物面積は約2000平方メートルである。開館後、欧米同学会の留ソ連支部からすでに1000点を超える文物や史資料が寄贈された。同記念館は、1000点以上の実物が常設展示されるとともに、ロシアに留学した900人超の関係者を取りあげており、この展示から百年以上におよぶ中・露関連の歴史をたどることができる。

展示内容は政党、政府、軍隊、民間、学会、ビジネス、教育および秘密関連業務など多岐に及んでいる。特に「在ロシア華僑史、建国初期のソ連に留学した人達によって中国にもたらされたマルクス主義の普及の歴史、ソ連（ロシア）に留学した人々の勉学と成長の歴史を展示すること」に重点を置いている。同記念館の責任者による紹介をまとめると、この黒河旅俄華僑記念館は、中華全国帰国華僑聯合会、欧米同学会留ソ連分会、黒龍江省帰国華僑聯合会といった組織の支援を受け、中共黒河市委員会、黒河市政府組織の指導の下で計画され、建設された。2009年8月、正式に公開され、ロシア（ソ連）留学の歴史に焦点を当て、近代以降の在ロシア華僑が中露（ソ連）の民族解放および国家建設および発展に対する貢献を反映した史料を展示している。百年来の中露（ソ連）の友好の歴史を展示した中国唯一の記念館であり、中国華僑華人および留学人員の国際文化交流の拠点の役割も果たしているという。

黒河旅俄華僑記念館の基本的な陳列は、6つに分かれる。

①「ロシアに飛び込み、極東の地を奔走した歲月」は、初期、すなわち1917年の「十月革命」前の在ロシア華僑労働者の分布と彼らが主に従事していた業種を示す展示である。

②「レーニンが最も信頼した人々」は、「十月革命」の中で、数十万の中国人によって組織されたソビエト赤軍中国軍団および赤軍ゲリラの活躍を描写している。

③「革命の真理を追究す



図3 黒河旅俄華僑記念館正門

出典：「黒河旅俄華僑記念館」黒河党史網サイト

<http://hhds.org.cn/aspcms/news/2016-8-8/342.html> 2018年12月5日アクセス。

るパイオニア」は、ロシア・ソ連留学から帰国し、マルクス・レーニン主義を普及させた革命の先駆者たちの成長過程を展示したものである。

④「ファシスト打倒のための戦い」は、抗日独ファシスト戦争中の中国の英雄および彼らがソ連で学習、生活、成長してきた後の革命世代について展示している。

⑤「あなたたちに希望を託す」は、1950～60年代に中国政府がソ連に派遣し、帰国後に専門家、中共や中国政府、軍隊および科学技術関連分野などで活躍した留学生を紹介する内容である。

⑥「在ロシア華僑の緑島」では、在ロシア華僑と留学生による黒河での起業、企業の設立、黒河を「辺境故に発展させ、華僑だからこそ活発に」した実在の人物、実際の出来事を展示している。

上記の展示構想とストーリーは、主として多くの歴史写真や文献データを用いて、さまざまな時期の在ロシア華僑とロシアの労働者がシベリアおよび極東の荒野を共同で開発した歴史を表している。また、ロシアの十月革命の期間中に数万の華僑労働者がボルシェビキの赤軍に参加し、ソビエト政権の防衛者となった歴史を振り返り、ロシアへの留学生たちが真理の追求から中国革命の先駆者（パイオニア）へと成長していく苦難の過程を示している。

同記念館では通年の展示の他に、欧米同学会の留ソ連分会、黒龍江省黒河市政府などの機関との共催で、2006年11月18～24日の期間、中国科学院国家科学図書館において、50年前の我が国の留ソ学生への学習や生活を反映した「学子之路—留ソ同学歴史写真実物展」を開き、450点あまりの写真や500件余りの実物史資料を展示した。同記念館は、中華全国帰国華僑聯合会から「中国僑聯愛国主義教育基地」、中共黒龍江省規律委員会と黒龍江省監察庁から初の「黒龍江省廉政教育基地」にそれぞれ選定された。

2017年7月26～27日の2日間、中国華僑歴史学会は黒河市中で「『一帯一路』の観点から考察するロシアへの留学生と近代中国の変遷および現代化プロセスに関する学術シンポジウム」を開催した。中国各地の20名近い研究者および23本の提出論文は、初期のマルクス主義の普及と在ロシア華僑、華僑と中国革命、ソ連への留学生の中国民主革命に対する貢献、ソ連への留学生と中国の改革開放、ロシア（ソ連）留学の歴史と人物、ソ連（ロシア）への留学生と中国社会の発展、ロシアへの留学生と一帯一路など、様々な問題について討論を行った<sup>(4)</sup>。

## 二. 中国留学生博物館（仮称）の設立計画

欧米同学会・中国留学人員聯誼会と珠海市政府による珠海「中国留学生博物館」（仮称）の設立計画の概要は下記の通りである。

### (1) 設立会議

2006年6月17日の『広州日報』は、珠海市に「中国留学生博物館」を建設する計画があることを報じた。同報道によると、同年11月17日（近代中国史上初の米国への留学生であった容闈の誕生日）に珠海市政府は、「中国留学生博物館」（仮称）を南屏に設立することを宣言した。

その後、欧米同学会・中国留学人員聯誼会会長会は、「中国留学生博物館の建設を確実に進めるために準備チームを立ち上げ、史料の収集、保護および整理業務を展開する」ことを決定し、中国留学生博物館の建設準備は2006年度の欧米同学会における重要業務の一つになった。2006年9月29日、「中国留学生博物館建設計画委員会」の第1回会議が欧米同学会会所で開催された。会議は、①専門チームとの幅広い協力、②段階的な実施と長期計画の融合、③準備業務と本会の発展との融合、④会の内部での動員と対外宣伝との融合、⑤中国留学生博物館の設立の5項目を提案し、この博物館が中国の社会および国家の財産になるよう目指すという方針を確認した。その後、会議の参加者は建設予定地を調査した

後、中国留学生博物館の命名、建設、運営、経費、人員、文物保護の緊急措置や留博館と現在の資料室の統合、基金の設立などについて協議を行った。

## (2) 計画の具体化と準備会議

2010年11月19日、欧米同学会・中国留学人員聯誼会、中共珠海市委宣伝部、珠海市香州区人民政府、澳門基金会が共同主催した「容閔を米国に留学させる教育計画の始動140周年記念および容閔と米国留学幼童子孫聯誼会」の期間中、「容閔記念館」と「中国留学博物館建設計画室」の着工式が南屏甄賢学校の跡地で行われた。同時に、欧米同学会・中国留学人員聯誼会、珠海市香州区文化・スポーツ・観光局および珠海市博物館の三者は、「中国留学博物館の建設計画枠組み協議」に調印した。

2013年、珠海市帰国華僑聯合会が関係者を組織して作成した「珠海容閔記念館と中国留学博物館の迅速な建設に関する意見」のなかで

「容閔および中国人の海外留学という文化は、歴史が珠海に与えた独特の文化資源であり、このブランドの優位性は他の都市には類を見ないものであり、人材確保の面において重要であることは疑いがない。容閔氏が提唱し、設立した南屏甄賢学校の跡地に珠海容閔記念館と中国留学博物館を建設することは、珠海の歴史文化の蓄積を掘り起こすのに有益であり、珠海の長い歴史のある留学文化の継承を通じて、世界への影響力を拡大し、海外の優秀な人材を惹きつけて珠海の競争力を高めることにもなるう」

と記している。

2014年3月6日、珠海市政協が発表した調査研究には、迅速に建設資金を集める一方で、実施可能なプランを立て、各方面の力を結集して両館の建設を進めることで、この一区画に珠海の留学および華僑文化とともに、珠海の独特な魅力や影響力を鮮明に示した歴史的な名勝地を作り上げなければならないとの結論が示された<sup>5)</sup>。

珠海市における「中国留学生博物館」(仮称)建設計画案に協力し呼応するため、暨南大学および欧米同学会、珠海市人民政府、澳門基金会の共同主催、中共珠海市委宣伝部、暨南大学珠海学院および暨南大学華人留学文化研究所の後援による「中国留学文化學術シンポジウム」が2008年5月10~12日に珠海市内で開催された。シンポジウムには、中国各地(香港、澳門を含む)および米国、カナダ、英国などの専門家100人あまりが出席し、40本を超える學術論文が提出された。国内外の多くの専門家が留学の先達である容閔の故郷珠海に集まり(会議期間中、参加者たちは、当地で「中国留学博物館」として拡張予定の容閔記念館を参観した)、海外留学と社会発展に関するテーマについて幅広く討論を行った。この學術シンポジウムでは「留学と社会発展」が大きなテーマの一つとして提起され、中国の海外留学の重厚な歴史を整理し、留学の基本的な実態と将来の展望を検討し、中国の海外留学の事業が、繁栄と発展の時期に入った、と提唱した。シンポジウムの期間中、欧米同学会、珠海市人民政府、澳門基金会、暨南大学、南開大学歴史学院留学研究センター、徐州師範大学留学生与近代中国研究センターなど6つの機関が共同で「中国留学文化研究会」の設立する計画を提起し、シンポジウムに参加していた専門家の積極的な賛同を得た<sup>6)</sup>。

## (3) 中国留学生博物館(仮称)の着工

珠海市の大成滙控文化發展有限公司と保利文化集團(株)の共同計画による「中国留学生博物館」(仮称)の建設は2017年から始まり、2020年にオープンする予定である。同博物館の展示ホールの総面積は、計画段階では約3万平方メートルとなっている。第一期計画では、容閔館、留欧館、留米館、留ソ(露)館、留日館および現代留学館の6つの館がオープンする。後期(第2期)には高さ200メートルの2棟の建物が建てられ、海外の留学から帰国した人々のための創業支援センター、珠海文化産業支

援センター，そして「中国の夢広場」など3つの文化広場を設立することが計画されている。本プロジェクトが完成すると，中国人の海外留学に関する壮大な歴史を展示した総合的な博物館が中国国内で初めて誕生する。

この計画と同時に，2017年9月には，同博物館の設立準備機関の呼びかけにより，中国内地で長期にわたり留学史，留学文化，留学政策および留学理論研究に従事する専門家や学者を珠海に招いて実地調査ならびに博物館の展示方針についての検討および論証が行われた<sup>(7)</sup>。また，2018年2月25～27日には，珠海市社会科学聯合会と中国留学生博物館（仮称）の共催で同博物館における「運営と展示」の方針を議論する討論会が珠海で開かれた。同会議では，留学文化の発祥地として珠海で全国的な総合留学博物館を建設し，百年あまりにわたる留学関連の史料を収集し，掘り起こして保存し，歴史的・文化的資源を保護し，留学生たちの「愛国の情，強国の志，報国の行動」を示すことは，歴史的，文化的意義があることが確認された。同会議は，「中国留学生博物館」が「学術による博物館の運営」，「イノベーションによる博物館運営」および「国際化による博物館運営」を基本理念にし，「中国留学生博物館」顧問委員会および「中国留学生博物館」学術委員会を設立することが決定した<sup>(8)</sup>。

### 三. 中国中央政府及び地方政府が開催した留学文物展・成果展

#### (1) 国家博物館が開催した留学史文物展

2003年3月，中国国家博物館は「海外で学び，中華のために功績を遺した——百年の留学史文物展」を開催した。これは新中国建国以降，近現代の留学史をテーマとする初めての大規模な展覧会であった。展覧会には，絶え間なく続く歴史のプロセスに基づいて約400枚の貴重な歴史的写真や300点近い歴史的文化的財が，「初識欧風美麗（ヨーロッパ風の美しさを初めて知る）」，「求索救国真知（救国のために真の知識を探求する）」，「無悔丹心報国（後悔のないよう真心を込めて国に報いる）」および「博浪世界潮流（世界で競い合う時代）」という4つのテーマに分けて展示された。百年あまりの中国の留学教育および留学事業の発展の歴史，そしてわが国の著名な海外留学経験者たちの近現代史における主要な貢献を如実に示すものとなった。この初の試みでは，数多くの歴史的人物の留學生活に焦点を当てるとともに，多くの展示品が初めて一般に公開された<sup>(9)</sup>。

#### (2) 中央省庁によって開催された帰国留学生のための成果展示

国家，または中央省庁レベルで開催された帰国留学生の成果展として，以下の2つが挙げられる。まず，教育部の前身であった国家教育委員会と人力資源と社会保障部の前身であった人事部が1990年11月15～22日に共同開催した「第1回全国留学帰国人員科技成果展覧会」である。北京市の全国農業展覧館で開催され，全部で2500あまりのプロジェクトが出展，國務委員宋健など5名の副国家級幹部が出席してテープカットやスピーチを行う盛大なものになった<sup>(10)</sup>。

次に，中共中央の批准を得て，中宣部（中共中央宣伝部），人事部，教育部，科技部（科学技術部）が2004年2～3月に北京展覧館で共同開催した「中国留学人員帰国創業成就展」である。この成果展には，全国31の省・自治区・直轄市，8つの部門および解放軍の計40機関が参加した。この展示には航空宇宙，情報技術，バイオ製薬，医療機器，新エネルギー，新材料といった分野を中心に，1100を超えるプロジェクトの成果が披露された。特に，チベット展覧ブースの尼瑪扎西，次仁，欧珠などでは米国，カナダ，ノルウェー等で帰国した留學生が農業科学，野生動物の研究，歴史と宗教，そして文化などの分野で挙げた成果が披露された<sup>(11)</sup>。

### (3) 上海市とその他の地方で開催された帰国留学生の成果展示

上海市は帰国留学生による成果展を複数回、開いている。1999年10月に、第1回「上海留学人員成果展」を開催し、展示後には『上海留学人員成果集1』を刊行した。第2回「上海留学人員成果展」は2007年11月21～25日に開催され、第1回と同様、展示会の終了後には『上海留学人員成果集2』が刊行された。

同市にある浦東区も、単独あるいは共同開催による成果展を実施しており、「第1回帰国留学人員浦東創業優秀成果展」が2007年9月に、「浦東新区新華僑人士、帰国留学人員イノベーション起業回顧展」を2009年12月19日に開催している<sup>(12)</sup>。

その他、地方レベルで開催された留学生関連の展示としては、以下の5つが挙げられる。

吉林省は2006年10月13日に「優秀留学人員創業成果展」を開催した。この成果展では、海外留学から帰国し、同省で科学研究に従事、あるいは起業した1万3千人の業績を展示したが、その中でも先進的な業績の紹介や135名の優秀な留学帰国人員による成果の紹介に重点を置いていた。主たる展示業種は、バイオ医薬、光通信、石油化学工業、機械、自動車などであった<sup>(13)</sup>。

蘇州市は、2012年8月に「中国百年留学歴史展および蘇州市優秀留学帰国人員成果展」を開催した。この成果展では、中国近現代の海外留学関連の写真や資料の展示を通じて、蘇州からの海外留学の歴史的過程（特に新中国成立以降）を示すとともに、留学終了後の中国ないし全世界で成し遂げた業績、さらには帰国した留学生による蘇州でのイノベーション・起業の現状も紹介された。蘇州出身の主な留学生として、王大衍、李政道、貝聿銘などをとり挙げ、彼らがそれぞれの分野で挙げた業績の紹介が成果展の柱であった<sup>(14)</sup>。

廈門市は2013年9月8日に「中国留学人員成果展」を開催し、廈門の帰国留学生が中心となって得られた科学研究の成果および特許技術、起業プロジェクトおよび起業の成果を展示した<sup>(15)</sup>。

科技部の事業部門である火炬中心（たいまつセンター）は、2014年6月27～28日および同年の夏と秋、大連や科技部本庁舎ホールにおいて「中国留学人員創業園建設20周年成就（写真）展」を相次いで開催した。この成果展により、留学から帰国した人たちが立ち上げたハイレベル新技術企業および優れたイノベーションが、中国の戦略的新興産業の発展と科学技術イノベーションの体制構築において一定の役割を果たしたことが明らかとなった<sup>(16)</sup>。

湖南省は、2015年1月17日に「留学人員創業園イノベーション操業成果展」を株州市で開催した。この成果展は、留学生が湖南省にUターンし、イノベーションや起業を行うよう誘致することは、省の人材発展戦略における重要な一部であることを示した。湖南省は、帰国留学生を管理する業務を設置し、留学生が湖南省へのUターンし、就職することが地元の経済と社会の発展に資するところ大きいという観点から、留学生の帰国を促す方針を表明している<sup>(17)</sup>。

また、留学に関する写真展も開催された。例えば、黒龍江省図書館は2014年末～2015年初めに「中国留学生歴史縮図展」を開催した。この写真展は、時系列に沿って展示された撮影作品を通じて、清末期の洋務運動期の第1回官費留学生をおおよその起源とする歴史的過程を表すとともに、数多くの中国人が海外に留学し、その後帰国し、祖国の発展に貢献した社会的な背景等も映し出した<sup>(18)</sup>。

そして、2016年4月24日～6月10日にかけて、『中国撮影』雑誌社が「写真留学後——中国写真留学生」学術シンポジウムおよび作品展を北京で開催し、60枚あまりの作品を展示した。写真展は、かつて英・仏・独・米・日などの国に留学したことのある中国国内の写真家をテーマに、彼らが青年、中年、老年期に撮影した写真および彼らが国外で見聞きた出来事から選び抜いたものから、国内外の近現代社会、歴史、人文、さらには中国の写真業界の隆盛、発展および変遷を示すものであった<sup>(19)</sup>。

中国本土以外で留学史関連の展覧会が開催されたこともある。香港では、2003年11月5日～2004年2月9日の期間、中国国家博物館と香港康樂及文化事務署、香港歴史博物館の共催で「学海無涯（学び

の海は果てしない) — 近代中国留学生展」と第1回「近代中国留学生国際学術シンポジウム」が開催された。その展覧会は180点あまりの実物と70点あまりの写真を通して、1847年以降の中国人の百年以上に及ぶ留学の歴史を示した。内容から判断すると、中国国家博物館が2003年3月に北京で開催した「海外で学び、中華のために功績をあげる — 百年の留学史文物展」をコンパクトにリニューアルしたものと言える<sup>(20)</sup>。

その他、フランスの地方政府の支援を受け、中国の湖南省政府が資金を出してフランス中部モンタルジ市ラトリエー街15号に設置された「中国旅法勤労工儉学主題記念館」がある。同館は元々1910~20年代にフランス留学し、勤工儉学の先駆者であった李石曾氏が住んでいた家であったが、その後は湖南省出身の青年を中心に300名あまりのフランス留学生の住居兼活動拠点となった。同館は2016年8月27日に正式オープンし、無料で開放された。館内は「時代の呼びかけ、真理の探求、東方の棟梁、長い友情」の4つのブースに分けられ、1920年代前後の中国フランスへの勤工儉学運動の様子を展示している。当時の中国の進歩的な青年たちのフランスでの勤工儉学に関連する功績の再現および記録、毛沢東の主導で組織された新民学会の影響を受け、湖南省の青年たちがフランスでの勤工儉学運動で果たした貢献についても紹介している<sup>(21)</sup>。

筆者の調査によると、本稿で指摘した展示館（建設計画中の館、建設中の館を含む）によるイベントや一部の留学成果展では、学術的なシンポジウムが併催されている。その内、大規模かつ学術性の高いものは、中国文化留学学術シンポジウム（2008年に珠海で開催、出席者約300人）である。その他に、フランスへの勤工儉学運動と20世紀の中国を取り上げた学術シンポジウムが2001年に保定にて開催され、約30人が参加した。また、上海留学生（城鎮発展）フォーラムが2015年に開催され、約120人が参加した。また、中国写真留学生学術シンポジウムが2016年に北京で開催され100人あまり参加した。

## おわりに

以上、本稿は、中国大陸と香港、または海外に設立されている中国人の海外留学に関連する博物館、記念館の現状と広東省の珠海で設置が準備されている中国留学生博物館（仮称）の動向、そして、各種の留学生関連のシンポジウムについて紹介してきた。

中国人の海外留学に関連する博物館、記念館は、留生活動の文物を収蔵、保管、展示、研究する機関であるのみならず、社会と市民に留学という文化資源を提供し、留学史の知識を伝える教学の場所にもなるべきである。このため、留学関連の博物館は所蔵する文物を活用し、博物館に対する人々のステレオタイプのイメージから抜け出せるように取り組むべきであり、新鮮で生き生きとした感動を人々に伝える必要がある。それと同時に、学術研究が実用的な目的とツールの役割を果たすことも求められる。

## 注

- (1) 王会田「留法勤工儉学運動記念館部分陳列浅析」、『文物春秋』1989年第21期、131-133頁。
- (2) 「長辛店留法勤工儉学予備班旧跡」, 北京市奉台文化委員会サイト, 2018年4月27日。「調研留学歴史文化旧跡」, 歐美同学会・中国留学人員聯誼会サイト, 2018年11月9日。
- (3) 許家浩「中国留学生博物館: 凝結留学記憶 傳遞家的温暖」, 『人民日報海外版』2012年5月10日, 第7版。
- (4) 呂白玉「旅俄華僑紀念館在黑河市建設中的作用」, 『黑河学院学報』2013年第2期, 2013年4月, 9-10頁。
- (5) 「珠海將建留學博物館」, 『人民日報海外版』2010年11月19日, 第6版。楊娣「珠海市政協組織赴南屏甄賢學校實施調研僑聯提案」, 中新網サイト (<http://www.chinanews.com/zgqj/2014/03-05/5912347.shtml>), 2014年3月5日。駱瀚「留學人員博物館籌委會成立并召開首次工作會議」, 『留學生』2007年第2期, 2007年2

- 月，3頁。
- (6) 張鶴「“中国留学文化學術研討会”在珠海召开」,『世界教育信息』2008年第8期,2008年8月,4頁。
- (7) 宋一諾,沈荣国「珠海留学博物館引關注 預計2020年建成投用」,珠海特区報サイト(<http://zh.house.qq.com/a/20170830/022090.htm>),2017年8月30日。康振華「珠海留学博物館即將動工興建」,珠海特区報サイト(<http://v1.hizh.cn/yaowen/413769.jhtml>),2017年9月22日。
- (8) 康振華,宋一諾「珠海將建中国留学博物館 追溯留学歷史傳承留学文化」,『珠海特区報』2018年2月26日第3版。
- (9) 国家博物館編『求学海外 建功中華——百年留学史文物展』,叢文集,2003年印制,1頁。
- (10) 李堅「首届全国留学回国人員科技成果展覽会在京開幕」,『管理評論』1990年第4期,60頁。
- (11) 「中国留学人員回国創業成就展成功举弁」,『中国人材』2004年第4期,2004年4月,4頁。
- (12) 苗丹国「創建国家級“中国留学博物館”的時代需求与可行性研究」,『江蘇師大學報』2017年第1期,2017年1月,5頁。
- (13) 王璐「吉林省留学人員聯誼会昨成立」,搜狐新聞網サイト,2006年10月14日。
- (14) 王丹「蘇州举弁百年留学歷史展暨留学回国人員成就展」,中新網サイト(<http://www.chinanews.com/lxsh/2012/08-29/4142157.shtml>),2012年8月29日。
- (15) 林善伝「厦門举办“中国留学人員成果展」,『經濟日報』2013年9月10日,第13版。
- (16) 「中国留学人員創業園建設20周年成就展举弁」,中国中央政府公式サイト,情報源:中国科技部サイト([http://www.gov.cn/xinwen/2014-10/13/content\\_2763615.htm](http://www.gov.cn/xinwen/2014-10/13/content_2763615.htm)),2014年10月13日。
- (17) 周懷立,易平,凌小娜「留学人員創業園成果展在株州举行」,湖南日報網サイト(<http://hn.rednet.cn/c/2015/01/18/3579117.htm>),2015年1月18日。
- (18) 董雲平「黑龍江省举弁中国留学生歷史縮影展」,新華網サイト,情報源『黑龍江日報』([http://www.xinhuanet.com/expo/2015-01/27/c\\_127425919.htm](http://www.xinhuanet.com/expo/2015-01/27/c_127425919.htm)),2015年1月27日。
- (19) 周星宣「從摄影交流到文化自覚——“摄影留学後研討会暨作品展”在京举行」,『中国摄影』2016年第6期,2016年6月,148-153頁。
- (20) 曹欣欣「首屆“近代中国留学生國際學術研討会”在香港召開」,『党史研究資料』2004年第1期,2004年,95-96頁。
- (21) 張曼,应強「中国旅法勤工儉学主題紀念館開館儀式在法国举行」,新華網サイト([http://www.xinhuanet.com/world/2016-08/28/c\\_1119466989.htm](http://www.xinhuanet.com/world/2016-08/28/c_1119466989.htm)),2016年8月29日。